

ココクゾウムシ

分類 鞘翅目オサゾウムシ科ココクゾウムシ

学名 *Shitophilus oryzae*

英名 Rice weevil



■解説

本種は、穿孔能力が高く、幼虫・成虫ともにコメ、ムギ、トウモロコシなどの穀粒を食害する貯穀害虫として知られており、幼虫は穀粉では成育できない。メスは、穀粒に穴をあけ、その中に1穀粒当たり1個ずつ卵を産み、孵化した幼虫は粒内で成育する。非休眠の幼虫態で越冬を行い、成虫は3~4月から活動を始める。多数繁殖すると発熱し、穀物内の温度が上昇するため、冬でも成育を続けることがある。世界各地に分布し、日本でも各地で普通に見られる。

■体長^{1,4)}

卵 : 0.5mm

幼虫 : 2mm

蛹 : 2mm

成虫 : 2.1~2.9mm

■産卵数^{2,3)}

産卵数/生涯 : 150 卵

■ライフサイクル

卵 : 3~5 日

幼虫 : 20~30 日

蛹 : 5~10 日

■発育零点（発育停止温度）⁴⁾

12.2~13.9℃

【参考文献】

- 1) 原田豊秋：食糧害虫の生態と防除，p. 442-444，光琳（1971）
- 2) 松崎沙和子、武衛和雄：都市害虫百科，p.53，朝倉書店（1993）
- 3) 安富和男、梅谷献二：改訂 衛生害虫と衣食住の害虫，p.78-79，全国農村教育協会（1995）
- 4) 佐藤仁彦：生活害虫の事典，p25-26，朝倉書店（2003年）